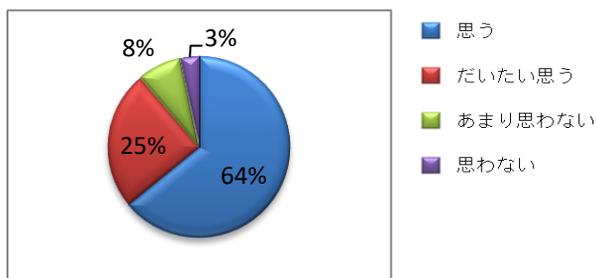


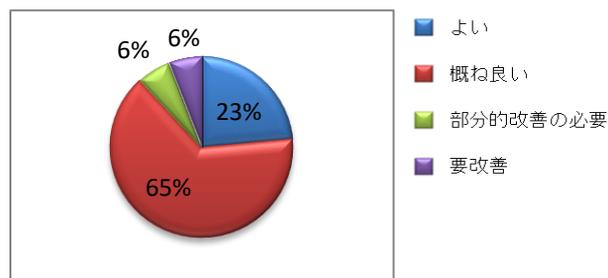
R04 学校自己評価 中間報告(1学期・全校児童・職員)

1 学校満足度

(1) 学校は楽しいですか。(児童)



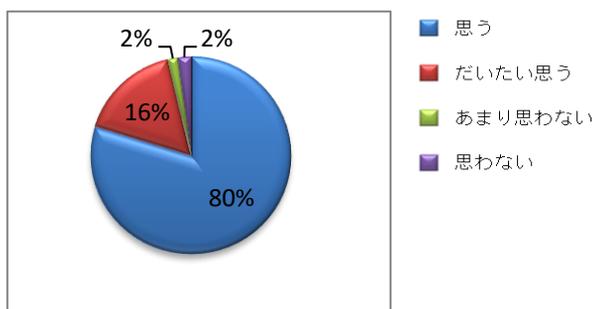
(1) 子どもたちが楽しく学校生活が送れるよう様々な面で配慮をしていますか。(職員)



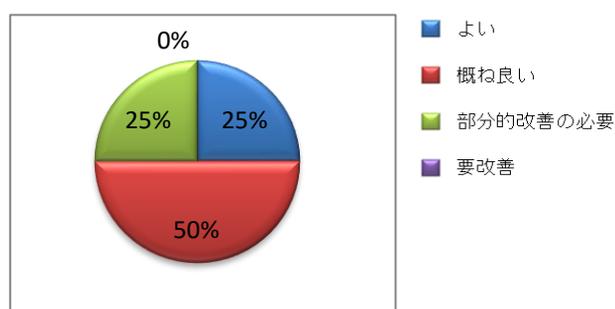
【考察】

全校の90%近くの児童が、学校を楽しんでいる。「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童は学びづらさや過ごしにくさを感じていると思われる。このことをしっかりと受け止め、UD化を軸に、多様化するニーズに柔軟に対応できる学校にしていきたい。

(2) 先生は勉強を分かりやすく教えてくれますか。(児童)



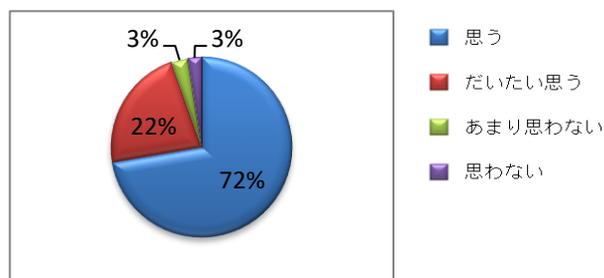
(2) めあてをはっきりと提示し、友だち同士の関わり合いを工夫し、まとめの時間をとる努力をしていますか。(職員)



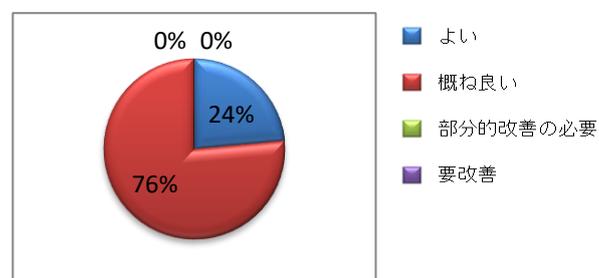
【考察】

「授業がわかりやすい」と感じている子の割合が高い。UD化の推進により、児童一人一人が授業のゴールまでの見通しがより持ちやすくなってきたことによるものか。学んだことが確かな力として身につけている「定着」を、今後の課題としたい。

(3) 先生は、困った時に相談に乗ってくれますか。(児童)



(3) 日頃から子どもたちに声をかけたり、保護者との連絡をこまめにし、子どもや保護者に寄り添いながら相談しやすくしていますか。(職員)

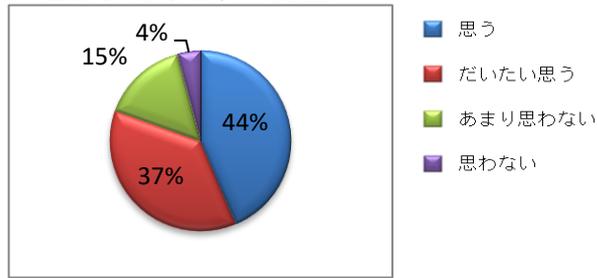


【考察】

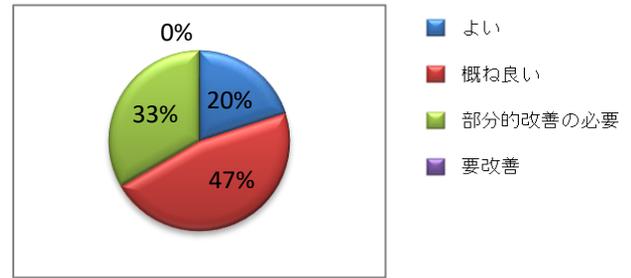
全体的にみると、多くの児童が「困ったときは先生が相談に乗ってくれる」と、教師への信頼を寄せていることがわかる。そう感じていない子たちへの接し方、ケアやフォローを引き続き心がけたい。

2 学 習

(1) 学習に進んで取り組み、自分の考えを友だちに伝えていますか。(児童)



(1) 子どもたちが学習に意欲的に取り組み自分の考えを持ち、その考えを伝え合う場を設定していますか。(職員)

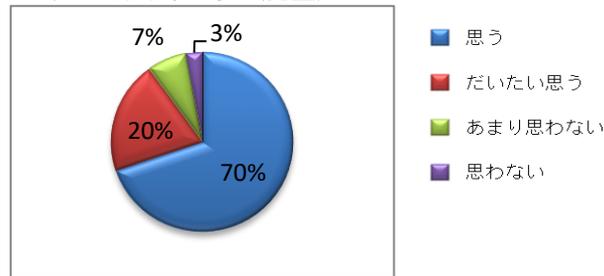


【考察】

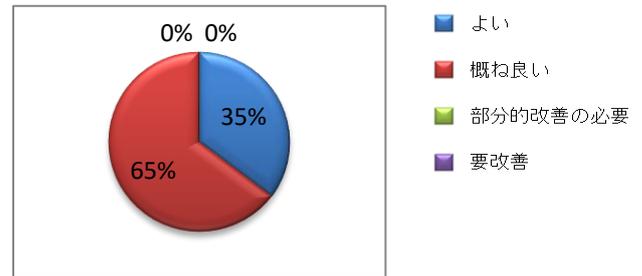
設問1-(2)「授業はわかりやすいか」と比較すると、「思う」「だいたい思う」が減少傾向にある。本校児童の学習への意識が受け身的なことの表れか。より主体的、協同的な授業にシフトしていきたい。

3 自尊心

(1) 先生や友達は、頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれますか。(児童)



(1) 子どもの努力を教師自らが認め、励ますと共に、子ども同士がそれぞれの努力を認め、励まし合える環境を作っていますか。(職員)

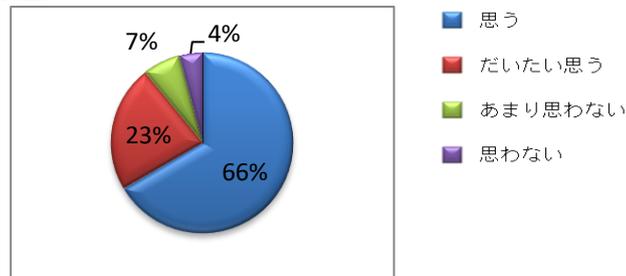


【考察】

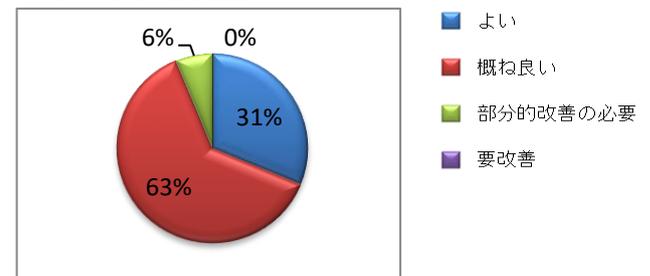
設問1-(1)「学校は楽しいか」と似通った回答比率になっている。内訳は必ずしも一致してはいないが、「自分の存在を認められている」という自己有用感が、集団の楽しさや満足感につながっていくと思われる。

4 心と体

(1) 学習や運動で最後まで諦めずに取り組んでいますか。(児童)



(1) 学習や運動で、最後まであきらめずに取り組めるようにしていますか。(職員)

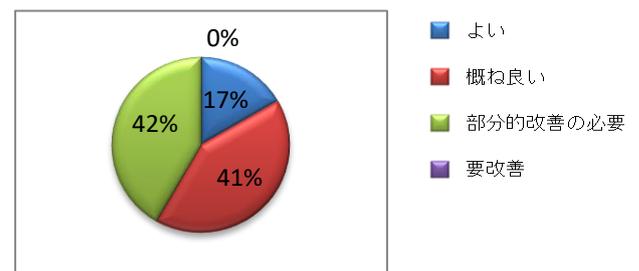


【考察】

多くの子どもたちが「自分がんばっている」という実感を持っているようである。粘り強くがんばっている場面をできるだけ見逃さず、褒めたり認めたりしていきたい。

5 地域との連携

(1) 地域講師の支援により、ふるさと体験学習を充実させていますか。(職員)



【考察】

コロナ禍の中ではあるが、地域探検や、栽培活動、楽器の指導などにおいて、たくさんの地域の皆様に教育活動への協力をいただいている。より「地域で子どもたちを育てる学校」をめざし、取り組んでいきたい。